教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のＷｉｎ－Ｗｉｎの関係」の構築

東浦町ＳＰ通信

～東浦町では、学生ボランティアを“職員の仲間”という思いを込めて、
「SP」または「スクールパートナー」と呼んでいます。～

第２号
2023 年 6 月 30 日

編集　緒方 なな
東浦町教育委員会
SPコーディネーター

5月・6月のSP活動

あっという間に6月も終わろうとしています。新年度になり、新しいウィークリーSP さんもたくさん入ってきました。各小中学校の SP 活動の様子を見に行くと、どの SP さんも暑い中笑顔で子どもたちに向き合い、試行錯誤しながら子どもたちのためにと一生懸命活動してくれています。また、ベテランの SP さんは、現場の先生と見間違えるほどの雰囲気を身につけていました。SP さんと子どもたちの関わりを見ていると、信頼関係ができているなと思う場面も少なくありません。まさに、“Partner”として学校で動いてくれています。同じ活動校で他の SP さんに会った時には、様子を見てみたり話したりしてみてください。活動とはまた別の学びがそこにはあるはずです。

暑い日も増えてきたので SP さんもこまめに水分補給をしてください。それぞれが自分の体調に気を付けて活動してもらえたらと思います。

SP's　Voice

今年度より、“SP さんの声”を積極的にお届けしたいと思います。 SP さん同士で関わる機会はそれほど多くないと思いますので、こちらを読んでみてください。またほかの SP さんに聞いてみたいことや伝えたいことがありましたら、ぜひ私にお声がけください。こちらの「SP's　Voice」に掲載します。SP さん同士の話すきっかけにしてもらえたら幸いです。

記念すべき第一弾は、片葩小の**横井 SP** です！週二回の活動を、去年の3月から続けています。

Q.　SP 活動で学んだことを教えてください。

SP をしていて大きく3つのことを学びました。一つ目は、できることに目を向ける大切さです。できないことに目を向けがちだけれど、どんな小さなことでも“できたこと”を見つけて褒めることでその子のモチベーションが上がり、「次も頑張ろう」という姿勢に繋がっていくことがたくさんあると感じました。

二つ目は個別の支援です。学校現場では、教師１人に対して 30人程の児童でクラスが構成されています。その中で行なわれる教育は 1 対 30で行うものではなく、1 対 1 の指導が 30通り集まったものであると学ぶことができました。また、これは学校現場がそれぞれの SP に求めていることではないかと感じています。最近、盛んに言われている「個別最適な学び」の中でも「指導の個別化」が SP の活動に近いように感じます。課題を子ども自身の力で解決することができるように手助けをすることが、SP に求められていると感じ、答えにたどり着くまでの過程を大切にした学習の補助ができるようになりました。片葩小で SP 活動をしている中で、児童の先導者にならず、“伴走者”でいることを意識するようになりました。

三つ目は、子どもたちとの関係性についてです。活動をしていて、よく中村浩二コーディネーターが、「児童たちとの“斜めの関係”を大切にするように」と仰っています。先生との上下の関係でもなく、友達同士の横の関係でもなく、「先生や友達には相談・質問しにくいけれど年齢の近いお兄さんになら相談・質問してもいいかな・・・・・・。」と思ってもらうことを大切に、子どもたちと関わっています。

Q.　ほかの SP さんに聞いてみたいことや伝えたいことはありますか？

ほかの SP には、「活動で 1 番大切にしていること」と「SP の活動を通して、2 度と忘れられないエピソード」を聞いてみたいです！

伝えたいことは、放課の時間はとにかく児童と一緒に全力で遊び、汗をかくこと！です。児童の顔と名前を早く覚えることや授業に参加して個別の支援をすることも大切ですが、児童一人一人の個性を知るという意味でも一緒に遊ぶことを大切にしています。授業時間以外の、児童が自由に使うことのできる時間に子どもたちの輪の中に一緒に入ることで、遊びを通じたコミュニケーションを取ることができます。これが、子どもたちとの信頼関係を築くことに繋がっていると感じています。